Journal of The Human Development Research, Minamikyushu University 2023, Vol. 13 ,77-81

報　告

令和４年度　高等学校との連携事業報告

－高城高等学校・飯野高等学校との連携の取組み－

園田　博一
早川　純子
藤本　朋美
若宮　邦彦
本田　和也
宮内　　孝

南九州大学は、平成 29 年３月に宮崎県立高城高等学校と、令４年２月に宮崎県立飯野高等学校と連携協定を締結した。この協定に基づいて、人間発達学部子ども教育学科は、当該生徒へのサポート活動を実施している。

このサポート活動のことを高城高校では「ナタ･サポ」と呼んでいる。「ナタ」とは、南九州大学を南 (ナ) 大 (タ) と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。飯野高校では「ナンかイイね」と呼んでいる。「ナン」とは南九州大の南 (ナン)、「イイ」は飯野高校の飯 (イイ) を意味する。

この２つの高校で実施したサポート活動について、以下報告する。

Ⅰ．宮崎県立高城高等学校との連携

高城高等学校へは、生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の「ナタ・サポ」に取り組んで６年目となる。

本年度は、本学科教員が下記の２つの内容についてした。

１．保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援

２．「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

１．保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

○衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的には、保育検定の分野にもなっている表現リズム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。

○大学と連携をした授業を展開することで、より専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。

このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1) 造　形　　担当：園田　博一
◇日　　時：令和４年　６月３日（金）
　　13 時 30 分～ 15 時 05 分
◇対　　象：３年生：１０名（男子３名を含む）
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容：「保育における表現　造形の基礎

１０名が受講した。保育における造形表現の意味を解説した。「表現」は「目に見えない心の内部を外部にあらわしだす」ことです。「表現」には、表現する行為である「表し」と、表現されたものである「現れ」の両方の意味がある。表に出てくるものではなく。現れるまでの「過程」に注目したい。

氷山をイメージ、水面上の部分（見えている現れ)、水面下の（見えていない内面の世界「表し」）水面下をいかに豊かにするかが大切であると強調した。作品の出来だけに心を奪われてはいけない。と注意を促した。

実技演習として、水絵の具を使った三原色の混色を、ペットボトルに仕込んだ絵の具による色水を使って混色の面白さを実験的に披露した。単純な色の変化に生徒の驚きと発見があった。また、フィンガーペインティングの実践も行った。初め

てという生徒多く、絵の具の質感、触感を使った表現を体験ができた。色鉛筆を使った描画体験も行った。色鉛筆の持つ豊か表現力を実感できたかと思う。今後も多様な表現素材を準備し多くの体験をしてほしいと願っている。

(2) 表現リズム　担当：早川　純子

◇日　時：

①　令和４年５月６日（金）15時15分～16時45分
②　令和４年６月６日（月）15時15分～16時45分
③　令和４年６月13日（月）15時15分～16時45分
④　令和４年７月４日（月）15時15分～16時45分
⑤　令和４年７月14日（木）15時15分～16時45分
⑥　令和４年10月14日（金）15時15分～16時45分
⑦　令和４年10月21日（金）15時15分～16時45分
⑧　令和４年11月18日（金）15時15分～16時45分
⑨　令和４年12月12日（月）15時15分～16時45分

◇対　象：２年生・３年生（保育検定受験者）

◇場　所：高城高等学校（家庭科実習室）

◇講座内容

例年通り、保育検定試験対策として３級以上の受験予定者を対象に、楽典とピアノの指導を行った。２級以上の音楽分野の試験内容は楽典の筆記試験とピアノの実技試験の２分野で構成される。３級についてはピアノ実技のみである。

検定試験は全国高校家庭科教育振興会が年２回実施しているもので、食物調理、和服、洋服、保育の部門がある。「４冠」というのは、これら４部門全てで１級に合格することを指し、全国でも年間40人ほどしか成し遂げられていない。今回の受講者のうち２名が「４冠」を達成したとの報告を受けた。その１名は、この春、本学科に進学予定である。検定受験を通して身につけた知識や技術を本学での学修に生かしてほしいと願っている。

音楽については全９回の授業を実施したが、生徒達は真摯な態度で臨み、積極的に質問して分かるまで粘り強く取り組んだ。特に楽典では、調性や和声といった理解するのが比較的難しいとされる理論が含まれる。これらの概念を正確に理解するためには、音楽理論の基礎をしっかりと理解する必要があるが、生徒達は努力を惜しまず基礎から真摯に取り組んでいた。これらの努力が実を結び、成果として現れたと考える。

今後も、生徒達が自分自身の能力を最大限に引き出して目標を達成できるようサポートし、成長を見届けていきたい。

(3) 言　語　　担当：藤本　朋美
◇日　　時：
第１回　令和４年５月27日（金）
第２回　令和４年６月17日（金）
いずれも13時20分～15時00分
◇対　　象：３年生
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容：
第１回　言葉を育てる遊び
＜ねらい＞
①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。
②「言葉を育てる遊び」にはどのような遊びがあるのか、その種類を知る。（児童文化財：絵本、紙芝居、お話、わらべうた、言葉遊び等）
第２回　絵本を通して子どもの育ちを学ぶ
＜ねらい＞
①「絵本」を通して子どもたちに何が育つのかを考える。
②絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。

講座は、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。『ぐりとぐら』のように長年読み継がれている絵本をはじめ20冊程度の絵本を持参した。

第１回は、絵本の意義のほか児童文化財についても触れ、子どもたちの身の回りにある遊びについて解説を行った。演習では読みたい絵本を選び、生徒同士で読み聞かせを行った。生徒自身が楽しむ様子から、絵本は乳幼児だけではなく幅広い年代の人々が楽しめる文化財であることを確認した。

第２回は、絵本に描かれた子どもたちの姿から発達過程を開設した。演習では素話の準備段階としてお話のあらすじをわかりやすく伝える活動を行った。覚えているつもりでも別の童話と内容を混同していたり、結末がわからなかったりして、記憶の曖昧さがその場を盛り上げることとなった。

絵本の魅力や絵本が子どもたちに与える影響について高校生へ伝えながら、読み聞かせや素話の技術力を高める活動を今後も計画していきたい。

◇「企業・郷土探究」講習会
日　　時：令和４年10月13日（木）
13時30分～15時30分
対　　象：１年生　41名
場　　所：南九州大学
講座内容：言葉を育てる

「企業・郷土探究」の一環として、高校１年生に向けて講演を行った。「伝え合い」において言葉がどのような力をもっているのかについて考えることをねらいとし、言葉に関するワークショップを行った。ワークショップを通して、次に示す言葉の力を体感することを目指した。
①言葉での表現がコミュニケーションを支えている。しかし一方で非言語の力も大きい。
②人は、言葉によって世界の見え方、捉え方を変えることができる。
③語彙が増えると世界を見る目が詳しくなる。

高校生自身が、「言葉」や、言葉を用いた「伝え合い」について考え、楽しめる話題を今後も提供していきたい。

２.「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサポート

担当：宮内　孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科２年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。この運動会の企画運営に取り組む生徒への３つのサポートを実施した。

(1)「ちびっ子運動会」開催に向けてのワークショップ
◇日　　時：令和４年６月20日（月）
9時40分～10時25分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて実技を交えて行った。運動会種目については、年長児にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方について指導した。

(2)「ちびっ子運動会」参観
◇日　　時：令和４年11月９日（水）
10時00分～11時30分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容

「ちびっ子運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

(3)「ちびっ子運動会」活動のまとめ
◇日　　時：令和４年11月14日（月）

8 時 40 分～ 9 時 25 分
◇場　　所：宮崎県立高城高等学校
◇講座内容
「ちびっ子運動会」の振り返りとして、
運動会で取り上げた種目内容のよさについて解説した。また､「効率的なマネジメント」の視点で、準備・進行・説明・指示や子どもへのかかわり方のよさについて解説した。
このような生徒が行った計画・運営等のよさを肯定しそして意味づけをすることで、生徒の達成感を高めたり、自己肯定感を高めたりする契機となったようである。

3.「ナタ・サポ」を振り返って

この取組みをスタートして、5 年が経過した。この 5 年間の取組みによって、円滑に本事業が運営できるようになった。
生徒にとっては、専門家による指導が受けられることもあって、当該生徒たちは本事業を肯定的に受け入れているようである。
今後は、5 年間の取組みの成果を省察して、本事業の充実を図るとともに、新たな分野での連携事業にも取り組みたい。

Ⅱ．宮崎県立飯野高等学校との連携

本年度は。飯野高等学校での「ナンかイイね」の初年度であった。本学科教員は、下記の３つのサポートを実施した。
1．子育て支援イベント (運動会) 企画・運営のための学習支援
2．「子どもの発達と保育」の学習支援
3．「生活産業基礎」の学習支援
このサポートの概要について、下記に報告する。

1．子育て支援イベント企画・運営のための学習支援

担当：宮内　孝

(1) 運動会開催に向けてのワークショップ
◇日　　時：令和 4 年 5 月 13 日（金）
13 時 15 分～ 14 時 55 分
◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校
◇講座内容
幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などをテーマとした実技指導を実施した。子ども教育学科の学生は、高校生に指導・助言を行った。学生にとっては、貴重な学びの機会となった。

(2)「運動会」参観と振り返り
◇日　　時：令和 4 年 11 月 2 日（水）
13 時 30 分～ 15 時 30 分
◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校
◇講座内容
「運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。
運動会終了後、運動会で取り上げた種目内容のよさについて、運動学的な立場で解説した。また、効率的なマネジメントのよさについてもふれた。
生徒が実施した活動のよさを肯定し、そして意味づけを図るようにして、生徒の達成感や自己肯定感が高まるように努めた。

2．「子どもの発達と保育」の学習支援

担当　本田　和也

(1) 子どもの心の育ちの講義①
◇日　　時：令和 4 年 11 月 21 日（月）
11 時 45 分～ 12 時 35 分
◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校
◇講座内容
子どもが他者の心の存在に気付くためには，心の理論の獲得が必須である。その基盤となるものは共同注意である。共同注意の形成には大人のかかわりが重要となる。どのようなかかわりが有効かについての講義を行った。

(2) 子どもの心の育ちの講義②
◇日　　時：令和 4 年 12 月 19 日（月）
11 時 45 分～ 12 時 30 分
◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校
◇講座内容
前回の講義を踏まえ，事前に質問を考えてきてもらい，応答するという形式による，Zoom での

講義を行った。

(3) 子どもの心の育ちの演習
◇日　　時：令和５年２月 27 日（月）
　　10 時 30 分～ 12 時 30 分
◇場　　所：飯野地区コミュニティーセンター

◇講座内容
　これまでの授業での学びを生かし，実際に子どもたちとかかわりながら学ぶという目的で，普段，えびの市の子育て支援センターに通っている地域の３組の親子に参加していただき，遊びの場を提供しながら，子どもとのふれあいを通して，かかわりを学んだ。その後，好評を通して，今回のかかわりの振り返りを行った。

３.「生活産業基礎」の学習支援

担当　若宮　邦彦

◇日　　時：令和５年１月 19 日（木）
　　９時 45 分～ 11 時 35 分
◇場　　所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容
「再考、最高！社会福祉 (ソーシャルワーク)」
　「福祉って何？」という原点なる問いから、あらためて豊かさや幸せの意義について講義を行った。
　子ども、障がい者、患者、高齢者等。一部のマイノリティ (少数派) を対象とした前近代的な視点からマジョリティ (全ての人) の豊かさや幸せを目指すソーシャル・インクルージョン (社会的包摂) について、身近な福祉課題から、福祉大国デンマークの事例を通じクイズ形式で講義を展開した。

４.「ナンかイイね」を振り返って

　初年度の取組みであることから、生徒の実態・要望等を把握しながらのサポート活動であったが、初期の目的は達成できたようである。
　次年度は、生徒の実態に適したサポート活動を検討したい。また、本サポート活動が、子ども教育学科の学生の学びの機会となるような手立てを講じていきたい。